

市バス停留所の雁道で下車し、空港線を少し南に下がると、左手に雁道商店街が望めます。雁道という地名は、古くはこの地が伊勢湾の入り江にあり、雁が飛来していたことに由来しているとのこと。昭和の初め頃、この近くに熱田工場を始め新堀川沿いには多くの工場がありました。現在は名古屋市体育館より西に進むと中京倉庫に当時の面影を残す重厚なレンガ造りの倉庫が現存します。ところで、この当時このあたりは大いに賑わい、その後も愛知県立第五中学校（現在の瑞陵高校）、平成10年まで高田町にあった愛知県立大学等に通う学生の通学路、近隣の人達の普通の生活を潤す街、また、近くの企業の酒席の場として役割を担ってきたようです。



重厚な赤レンガ造りの倉庫

商店街の入り口にあった居酒屋は、会社帰りのサラリーマンで、いつも満席でした。何処にでもあるチェーン店と違い、今日仕入れてきた魚や旬のものが出てきて、うまいお酒を呑みながら和気あいあいと語ることが出来ました。残念ながらその居酒屋もかなり前に廃業されました。

この雁道商店街の道は、大津通りから現在の高蔵高校までを高田郡道といい、高蔵高校の前の道には千種郡道という名称がつけられています。

ほんの数年前までは商店街の入り口に小さな書店があり、そこに入ると背表紙が白くなりかけた単行本や、誰もが知っている著名作家の全集などが棚を占拠していました。古本屋に近い店でも、お店の前面には最新の雑誌が置いてあり、ここを通る時にはいつもビックコミックを買い求めました。

数軒先の角の自転車屋さんには、今は廃業されて面影はありませんが、パンクすると自宅から自転車を引いてきて直してもらいました。1階の壁には昭和11年頃の雁道商店街の写真、2階の窓には古風な自転車が記念として飾られています。



昔、懐かしいレトロな書店

商店街には蕎麦屋、時計屋、カメラ屋、薬屋、寿司屋、洋品店、理髪、米屋、おもちゃ屋、喫茶店、居酒屋と多くの店が軒を連ねていました。雁道交差点から千種郡道近くの300mくらいの間に70軒を超えるお店があったようです。

今も残る手作り最中の店の前には和菓子屋さんがあり、突然のお客さんがあった時などには急いでお店に向かうこともあり、手土産が必要な時には大いに利用させていただきました。

今、近くに和菓子屋さんがないのが残念です。

2軒目の書店は、商店街の東の端にあって、我が家の息子は小学生から大人になるまで、その店で週刊漫画ジャンプを買い求めていました。



2階の出窓にはハイカラさんが乗った自転車がディスプレイ

子供に頼まれて買いに行くと、「子供さんはどうされましたか」「今年は高校ですか」などと会話の機会がありました。

主人は腰を痛められやむなく店を閉められたが、近くに本屋さんが無くなってしまったのも残念です。また、この本屋さんの近くには、お好み焼きがあり無口な亭主の前で焼きそば、お好み焼きを食べたことを懐かしく思い出します。

しかし、今でも名古屋の喫茶文化なのか、この商店街に壱番館、赤と黒など5軒の喫茶店があります。

山小舎風のシャモニーは昭和42年に開店されたと聞きましたが、外部も内部も当時の面影を残しています。以前に県立大学へ通った人たちと話す機会があり、雁道を懐かしむ話が出て、よくこの喫茶店でおしゃべりをされたそうです。

雁道通りを少し入ったところに南北に交差する賑町通りがあり、少し南に行くと古き良き昭和の匂いが色濃く残る栄市場がありました。ここには必要な生活物質を何でも求めることができました。通りの左側の入り口を入ると、紐でくくったどんぶり鉢から、湯飲み、茶碗類を売る瀬戸物屋。奥に入ると左手に新鮮な豆腐が水槽の中にあり、「木綿をお願いします」と言うと、白い割烹着姿のおばさんが手ですくってくれた。中ほどの野菜売り場には、旬の野菜を小分けにして買い求めることが出来、そこのおばさんは暗算が得意で、レジで精算するよりも早く値段を示されました。

今日は少し豪華なカレーをと、肉屋に行けば、その場で大きな肉の塊から一口大に切った牛肉を、好みの量で買うことも出来ました。市場の入り口のお茶屋さんからは香ばしい香りがし、揚げたての熱々のコロッケを売る店もあって、帰ってレンジでチンすることなく食べることが出来ました。どこの店も定量が入ったパックを買わなくても、今日必要とする分だけを買うことが出来、まことに重宝でした。毎日の買い物の店は、せいぜい自分の足で行ける距離にあってほしいものです。これらの店も店主の高齢化、若者志向にそぐわない、近くに大型スーパーが出来たこと等で、1軒1軒と廃業し、ついには栄市場も無くなってしまいました。まだ、自転車に乗ることが出来るから少し遠くの店でも困らないが、歳をとってしまうと、さてどうなることやら。

お年寄りにとっては、街中であっても、集落に1軒しかなかった雑貨屋が無くなってしまった山村と同じような状態となっています。今ではこのあたりも週二回ほど軽自動車を改造した移動スーパーが生活の手助けをしています。[【つづきの七夕祭り、賑町についても瑞穂鯨城会HPに掲載】](#)

